

第1分科会テーマ

「『持続可能な地域づくりの担い手となる若者や女性が活躍できる社会の構築』」
「『新庄・最上ジモト大学』で楽しく学ぶ。～ヒト・モノ・コト、地域全体が学びの土壌～
一般社団法人とらいあ 専務理事 高橋一枝
(新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム事務局)

1. はじめに

一般社団法人とらいあは、平成19年任意団体として誕生し3年後の平成22年9月、非営利型法人「一般社団法人 とらいあ」となった。「郷土を愛し、次世代につなげる学びのまちづくりを目指して」をキャッチフレーズに、地域とともに学びのネットワークづくりを推進してきた。図書館をはじめとする公共施設等の管理・運営事業を柱に、学びによる人材育成事業受託などの経験を十分に活かし、行政や関係機関との連携を図り、人づくり・地域づくりに貢献してきた。「とらいあ」の名称は、「家庭・学校・地域の学びのネットワーク、連携協働の三角形、三方良し、挑戦する人、地域のために常に努力を忘れない」に由来する。

2. 新庄最上ジモト大学について

(1) ジモト大学

『新庄・最上ジモト大学』は「高校生と地域の大人が本気で語り、学び、交流する場」として、最上地域全体がキャンパスとなり、平成29-29年に開校した。最上地域には大学等の高等教育機関がないこともあり、卒業すると同時に多くの高校生がこの地域を離れていく。部活動や学校の授業で多忙な高校生に、少しでもこの地域の課題や魅力を知り、地域の大人と繋がる機会を提供したいと、行政、高等学校、企業、団体等が地域一体となって本事業を推進している。新しい学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を重視しており、高校生が主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ることも、ジモト大学の大きなねらいである。

(2) 推進体制

平成29年度に官民協働事業として事業化され、さらに平成31年3月には、市町村、県、管内高等学校、大学、経済団体などの22-22団体で構成されるコンソーシアム体制となった。令和3年度からは、行政区を超え村山地域の尾花沢市等も取組に加わり、23-23団体となっている。また、県ととらいあで構成される官民協働の事務局の運営は全国的にも珍しく、官の牽引力、民の柔軟でユニークな発想と幅広いネットワークという、お互いの強みがシナジーとなって今年度で5年目を迎えることができた。

3. 具体的な取り組み

(1) カテゴリ

ジモト大学のプログラムはそのコンテンツで大きく三つに分類される。仕事を意識し、内容ややりがい、その仕事に就くための方法などいろいろな職種にふれることができる「キャリア型プログラム」、体験することで、最上地域の食や文化 歴史を知ることができる「体験型プログラム」、地域の課題を見つけ、そこに自分は何を考え、関わりたいか動いたらいいのかを考えて、自分をどう活動を通して地域を知る「課題発見型プログラム」にカテゴライズしている。

(2) 具体的なプログラム (昨年度)

①①キャリア型

「Jump in your dream ～本当の大学生活をまだ君は知らない～」

(提供者：AgasukeHouse (山形大学で活動している学生団体)) 新庄・最上地域には高等教育機関がないため、高校生は大学進学へのイメージを持ちにくい。オンラインで大学生とのリアルな対話を重視し、大学受験や大学生活についてのイメージを膨らますとともに高校卒業後の地元とのかかわりを考えた。

令和2年度 まちなかペイント大作戦

②体験型

「まちなかペイント大作戦」(提供者：glassydesign (新庄市内のブランディング・デザイン事務所)) ペイント(アート)を通して地域の人たちが一体となり、楽しく元気に町を盛り上げる。高校生が企画から入り、ペイントする場所を決め、交渉し実施運営した。多世代の地域の方が利用している図書館駐輪場壁に140名を超える参加者が一緒にペイントを行った。

③課題発見解決型

「新型コロナに負けるな！みんなを元気にする「てれ・ぼら」プロジェクト(提供者：最上教育事務所社会教育課) 地域活動に興味関心を持つ中学高校生が、青年ファシリテーターのアドバイスにより、SNSを介して地域情報を発信する。それにより、地域における絆とボランティア活動の輪を広げた。地域に出て実際に取材を行い、情報モラルの学習をしたあとジモト大学FaceACEbookBOOKに投稿し、話題を集めた。

(3) プログラム勉強会とフォーラム

プログラム勉強会は、大学の先生を講師として開催。高校生がこれからの時代を生き抜く力(主体性・協働性・社会性・探究性)を学ぶプログラムとなるようにするため、プログラム提供者や関係者の勉強会を年1回以上行っている。あわせて、高校生とともに考え学ぶことができる地域の大人のネットワークづくりとなっている。また、フォーラムは高校生の探究発表の場、プログラム提供者の事例発表、多世代の地域の方との高校生のワークショップによる対話など、1年間のリフレクション



令和3年度ジモト大学
ポスター

書式変更: インデント: 最初の行: 1字

書式を変更: フォントの色: 自動



令和2年度 まちなかペイント大作戦

と交流の場である。昨年はずらとも、オンライン開催となり初めてのことばかりであったが、今後様々な可能性や方向性につながったかと思う。

(4) 地域側の協力と学校との連携

高校生にジモト大学への理解を深めてもらい参加を促すために、各高校を会場にジモト大学説明会を開催した。これは、県の担当事務局の調整と学校の協力があつて5年目にしてはじめてほぼすべての高校で行うことができた。今年度さらに進化したことは、プログラム提供者も一緒に高校に赴き、プログラムを説明したことである。このためのPV動画の作成、画像での紹介など、プログラムの魅力を存分に伝え、アプローチすることができた。また、高校生が参加申し込みやすいよう、Web上で申し込みできるようにしている。地元企業が協力開発したWeb申し込みシステムを使用しており、パンフレットでは書ききれないプログラムの情報発信や参加状況の把握がリアルタイムでできるものとなっている。本システムは、参加高校生のとりまとめや連絡手段等、事務局業務の簡素化にもつながっている。



高校を会場としたジモト大学説明会

5.4. 活動等の成果

5.4. 活動等の成果

ジモト大学では、昨年度までの4年間で96プログラムを実施、そこに参加した高校生は延べ1789名となった。コロナ禍の昨・今年度も、オンライン開催等その時の状況に応じて学びを止めずに展開している。5年目の今年度は、尾花沢キャンパスも加わり36プログラムが実施予定である。最上管内の高校生はもちろん、北村山地域の高校生との相互交流も期待される。また、卒業生がジモト大学に恩返ししたいと大学のボランティアサークルとして、防災プログラムを提供してくれている。そんな繋がりが後輩たちに引き継がれ、高校生の自走も始まっている。

何気なく道端であう高校生が「今日これからジモト大学さ行ってくる・・・」、そんな会話も聞かれるようになった。また、とらいあが高校生が立ち寄ることの多い新庄市内の社会教育施設2館を指定管理していることも相まって、高校生のやりたい事や地域の情報が入ってきたり、相談されたりするなど、より身近な存在となり、高校生との信頼関係も築かれつつあると感じている。

地域では、プログラムを提供する地域の大人による「地域部会」が立ち上がった。これは参加した高校生からのアンケートをもとにリフレクションをおこない、プログラムの質を高めていこうという意欲ある部会である。さらに高校生が地域で安心安全に自走できるようサポートしながら、大人たちもともに学んでいこうと「最上マイプロジェクト推進運営委員会」も生まれた。

このように大人たちが自分たちの住んでいる地域の魅力や課題を再発見し、地域振興、地域づくりに関わる機会やコミュニティが生まれてきていることも、ジモト大学の大きなリターンと感じている。

6.5. 今後の課題

新庄最上及び尾花沢管内の多くの高校生が地域での学びを充実させ、安心して活動できるようにするためには、学校と地域がさらに連携協働しやすい関係を構築し、環境を整える必要がある。そのためには関係団体を結び付けるコーディネート役の人材が必要と感じている。

また、高校生や地域のニーズを集約し、活動の起点となるような、活動交流拠点の整備と充実が今後の大きな課題である。

さらには、少子化が急速に進む新庄・最上地域の子どもたちが、郷土を理解し、課題を見出し、ふるさとを愛する心を育む活動を多角的に、地域全体で取り組んでいくことが急務であると考えられる。

「学校・地域・家庭」との信頼関係を構築しながら丁寧につなぎ、実直に進めてきたとらいあであるが、まだまだ進行形である。点と点がいつか線となり面となる、そんな地域づくりを目指し、ジモト大学を通して、私たち自身も日々学び続けたいと思う。

そして、子どもたちが高校に進学したときに、マイプロジェクトを自走できるように、小中学校の探究学習やふるさと学習を地域総がかりで支える体制づくりを推進していきたい。高校生も地域の大人もその先の未来に向かって、常に学び、成長し、前に進んでいけるように…。

最上マイプロジェクト推進運営委員会オンライン勉強会チラシ



大人と高校生のグランドルール！ ジモトのことをよく知ろう！ もっと自分から積極的に語ろう！ ともに本気で学ぼう！ 合言葉は、ジモト！！ 今日笑顔で元気に、新しい素敵な出会いが、ジモト大学で待っている。



令和元年度 Next Action～一歩踏み出す、今日がその日～（提供者：AgasukeHouse）